

○2025 年度受賞者

【経済分野での活躍等】

◆山口 千絵子氏（新 14 住） 山口木材工芸株式会社 代表取締役社長

銀座松屋室内装飾課デザイン室に入社。住宅を中心に、数多くのインテリアの仕事に従事する。1969 年、父が長期入院となったことをきっかけに山口木材工芸株式会社に入社。企業経営者として会社を成長させる。2009 年には東京都家具工業組合において、女性として初めて理事長に就任し、約 70 社の同業者をまとめる役割を担う。理事長退任後は若手木工技術者の育成を目的に、東京都職業能力開発協会にて技能検定の支援活動に従事している。2010 年には経済産業省のジャパンプランド育成事業の一環として、高級特注家具「tobi」ブランドを携えて、パリで団長として 2 年間にわたり展示会を開催。また、自社経営においては、税務署より長年にわたり優良申告法人として表敬を受け、2014 年には国税局賞を受賞する。

【社会貢献】

◆小森 美巳氏（新 5 国）演劇集団・円 演出家

NHK 入局。『おかあさんといっしょ』の立ち上げからプロデューサーとして携わり、当番組は現在まで続く長寿番組となっている。ラジオ『婦人の時間』、TV『うたのえほん』も担当。1970 年、NHK を退職し、演劇集団・円に所属する。1981 年、「円・こどもステージ」をスタート。別役実、谷川俊太郎、佐野洋子、きむらゆういち等の書き下ろし作品を年一本公演、小作品で文化庁巡回公演にも参加している。家中で観てもらえる舞台を作り続けて 40 年余り、厚生省児童福祉文化賞他、いくつもの賞を受賞している。また、成瀬記念講堂の復興（レンガの会）や日本女子大学創立者成瀬仁蔵がどのような思いで大学設立を成し遂げたかを描いた、記録映画「目白の雪の日」を舞台化し、ビデオの作成にも取り組む。

◆久保 柴の氏（新 21 教）親愛ケアサービス株式会社 代表取締役

社会福祉法人親愛会 理事長

大学時代に心理学を学ぶ。30 代半ばで「社会の役に立ちたい」という思いから鍼灸マッサージ師の資格を取得し、病院勤務でリハビリ治療に携わるようになる。患者・家族が抱える生活全般の悩みに触れるうち、「高齢者介護とリハビリを結びつけ、高齢者が尊厳をもって生きられる場所を作りたい」と決意し、ケアマネジャーの資格を取得。1999 年、親愛ケアサービスを設立。その後、24 時間 365 日利用者の生活を支えるため、介護付き有料老人ホーム親愛カトリア館を開設する。その中で認知症ケアの必要性を痛感し、市川市の選定を受けグループホームを設立。また、待機児童問題解決のため、保育事業にも関わり、社会福祉法人親愛会を設立。その両者が一体となり、特別養護老人ホームから保育園まで合計 20 以上の施設を展開する組織となっている。

◆庄司 操氏（新 25 児）キープオンカンパニー株式会社 代表取締役社長

活動の原点は、ダウン症の長男を会津養護学校高等部に入学できるよう陳情運動を始めた

ことである。その結果中学部全員の入学を認めさせ、当該学校の PTA 会長を 2 年間務めた。子どもたちが卒業後に過ごす作業所づくりのため「NP0 法人雑草の会」を立ち上げ、会津地域各地に次々に作業所ができるきっかけとなった。2002 年には「NP0 法人障害者地域生活支援センター マカセッセ」を立ち上げ、現在も理事長。ここで始めた障がい児の一時預かりは、福島県内初の市の補助を受けての事業として注目された。2002 年から 2007 年には「会津若松市手をつなぐ親の会(障がい者の親の団体)」の会長を務めた。2012 年にキープオンカンパニー設立。就労系のカフェレストラン MARC を始め、様々な障がい児者支援事業を行うなど、地域に密着した支援活動を続けている。

◆山田 和恵氏(新 31 児) 横浜尾上町クリニック 臨床心理士 公認心理師

大学・大学院で発達心理学等を学び、横浜市立大学医学部研究生として、精神医学を学ぶ。その後、心理職の様々なキャリアを積む。日本は子どもたちが漠然としたストレス不安・絶望感を抱きやすい状況下であり、子ども、若者の死亡原因第 1 位が自殺であることから、2013 年、精神科心療内科を開設し、特に COVID-19 禍以降現在まで 500 人以上の子ども若者のうつ病に寄り添う。チーム医療で取り組むことにより「一人も待たせず断らず死なせない自殺予防」を実践して、児童相談所等他機関とも連携している。た、学会でシンポジウムを企画、臨床実践成果を示し、社会制度の問題の指摘、提言を行う。子どもの自殺予防に寄与することはその家族の人生を救うことにもつながると信じ、臨床と啓発を行っている。性被害者支援への貢献により 2024 年神奈川県警より表彰。

◆斎藤 なを子氏(新 32 社) きょうされん 理事長

学生時代から作業所設立の運動に携わり、卒業後は作業所専従職員として働く。現在、障がいのある人の労働や生活を支援する社会福祉法人鴻沼福祉会の理事長。2019 年には、障がい者の豊かな地域生活を支えるために全国 1850 カ所の加盟事務所からなる「きょうされん(前共同作業所全国連絡会)」理事長に就任。全国規模の活動を牽引し、国会請願、政策提言、要求活動を通して、関連する法制度の拡充に成果をあげている。また、能登半島地震などの被災地支援にも臨機応変に取り組んでいる。その活動の根底には、障がいの重い人へ配慮し、多様な人が共生し、その生活を守るには平和のもとにこそという信念がある。国際会議においても、特にアジアの人々との共感と信頼を深める草の根レベルの交流を行っている。

※受賞時の組織名、役職名で記載。